

令和4年度 福井県立若狭高等学校(定時制) 学校関係者評価書

<p>(問)</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。・総括評価書の改善策・向上策が適切か。・その他
<p>(意見を聞いた方)</p> <p>定時制振興会 会長・副会長 定時制 育友会 役員 (4名)</p>
<p>(意見欄)</p> <p>○教育課程・学習支援・研修</p> <ul style="list-style-type: none">◆基礎学力充実への取り組みについて<ul style="list-style-type: none">・高校生にとって一番の弱点であるが計画的で丁寧な指導のおかげで自信を取り戻してる様子が伺える。・どの学年も少人数のため、真面目に聞くだけで学力が向上した。・個別最適な指導方法の確立について、さらに授業研究を重ねて欲しい。・考査の振り返りを丁寧に行うなど、学力定着に向けてアフターフォローお願いしたい。 ◆学習に対する興味・関心・意欲を高めることについて<ul style="list-style-type: none">・高校生が学んだアクティブラーニングの考え方は、探究的な学習の意義として、重要なポイントであろう。・主体的な学習の成果として、どういう形で現れてくるのか、具体的に示してほしい。・引き続き、生徒の主体性を伸ばす取組について試まれることを期待する。 <hr/> <p>○生徒支援</p> <ul style="list-style-type: none">◆生徒会活動の充実に関する取り組みについて<ul style="list-style-type: none">・資料で紹介されているように行事等の機会が充実しているようで皆さんの笑顔を感じられ申し分ないと思う。・様々な行事で、色々な役割をすることで行事に積極的に関われ成長できたと感じている。・生徒達でまとめた意見をどう伸ばし、満足できる活動を創っていくか、これからも考えていってほしい。 ◆自他を尊重する意識を高め、自分自身の生き方を見つめさせる取り組みについて<ul style="list-style-type: none">・資料の中でも紹介されているように S S W や S C と連携し、活動範囲を広げている様子に感心している。さらに一層役立てていただきたい。・コロナ禍の中で今まで通りのボランティアは難しかったと思われるが、工夫され継続されている様子に、今後さらに期待している。・それぞれの活動における目的、意義をよく考え、自分自身の生き方を見つめ直す良い機会としてほしい。 <hr/> <p>○進路支援</p> <ul style="list-style-type: none">◆職業意識の啓発と、自らの進路について考えさせる取り組みについて<ul style="list-style-type: none">・本校定時制生徒にとってキャリア教育ほど大切なものはないと思っている。1年生から計画的に取り組まれており内容も充実が図られているようだ。・個別の感想であるが連合文化祭の生活体験発表会でスピーチをした方が進路に農業を考えられている様子なので、ぜひ農楽舎の研修制度を考えていただけるとありがたい。・一つ一つの進路行事のつながりについても今後検討してもらいたい。 ◆資格への挑戦について<ul style="list-style-type: none">・日本語検定のレベルアップから意欲を高め漢字検定や英語検定に広げていく方針のようで適切であると思う。・資格に関しては最低3級以上取得を目標に3年から4年かけてでも頑張ってもらいたい。

○全体（総括）

- ・これまでの夜間定時制の伝統を踏まえ、昼間の定時制のよさをともに生かしながら主体性を大事にした運営を実現している様子に感服している。なお一層役割を自覚しつつ教育の充実を望みたい。
- ・コロナ禍で思うように活動できなかつたと思います。それでも楽しく3年間過ごせたのは本人の頑張りはもちろん先生方との関わりも大いに助けになったと思います。3年間ありがとうございました。
- ・コロナ禍での学校生活で制限も多く難しい場面も多々あったと思いますが、教職員の皆様が創意工夫してご指導にあたってくださり大変感謝しています。

（学校関係者評価を踏まえた今後について）

○教育課程・学習支援

授業に参加し学びを進め、主体的に課題に取り組むことで学習内容を定着させてきた。この一連のプロセスを繰り返すことによって、学校に登校する意義について、生徒の意識も高まり新入生においてもうまく機能するようになってきている。

コロナが徐々に落ち着いてきた現在、コミュニケーション力やプレゼン力の育成のために、グループ活動などのアクティブラーニングを積極的・効果的に取り入れ、発表を行ったり、意見交換の場を設けるなど行えるように検討を続ける必要がある。

また、情報の取捨選択及び活用がますます重要になる中で、タブレット等の活用やN I E活動の取り組み等を行うことで、生徒が自らの力で学びを広げていくことが求められる。

○生徒支援

生徒会活動を通して自主性や責任感を育み、学校生活全体を充実させることを目標に取り組んでいる。少人数であることの特徴を生かしながら、多様な生徒に対して個性を尊重し個人に合った支援を行うことで生徒の成長につなげていきたい。その為には教員相互の情報の共有と、教員と生徒間の信頼関係の構築が重要であるためコミュニケーションを図りながら計画的に取り組んでいきたい。

コロナ禍において、ボランティア活動や外部講師の招へいによる講演等の取り組みに大きな制約が生まれた。自他を尊重する態度を高め自分自身の生き方を見つめさせる上では生徒に対して様々な働きかけが必要であるため、リモート開催等も積極的に取り入れ感染対策にも配慮しながら取り組んでいきたい。

○進路支援

進路に関する行事は一定の成果が出ている。今後も担任が面談や進路希望調査等を通して生徒の職業意識を把握し、進路に関する行事は生徒の実態に合わせて内容を適宜検討しながら実施する。

特に、卒業年次の生徒には早期から進路情報を提供し、生徒の進路決定を支援する。進路ガイダンスの内容についてはより生徒に寄り添ったものになるように改善していきたい。

生徒の資格取得については、資格取得に対する意欲の高い生徒が増えてきており、生徒の取り組み状況も良好である。レベルの高い受験級の合格率を上げるために、各教科担任が検定試験の情報を生徒に提供するとともに、互いに学び合う学習環境の場を整えるなど支援を行いたい。また、日本語検定以外の様々な資格が取得ができるように体制を整えていく。